

こんにちは。もうすぐ夏休みも終わりです。9月から始まる学校がこんなに楽しい学校だったら素敵だな！と思う本を今回は紹介したいと思います。

『そばかす先生の不思議な学校』

ヤン・ブシェフバ 作 内田 梨沙子 訳 学習研究社 1365円 読み物

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年★★☆ 小高学年★★★ 中学生★☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

主人公アダムに通う学校はとてもかわっています。先生は顔がそばかすだらけのクリクス先生一人。生徒はAから名前が始まる男の子のばかり。アダムもAから始まる名前だったのでこの学校に入ることができました。アダムはこの学校にくるまであまり楽しい毎日ではなかったのですが、クリクス先生の学校に来て毎日がとても楽しくなります。だって先生の授業はサッカーをしながら国の名前を覚えたり、宝探しをしたり、大あな小あな工場を見学したり、楽しいことばかりだからです。生徒たちは学校の中に住んでいるのですが、その生活も楽しいことだらけ。クリクス先生は何でもできて、空を飛んだり、絵の具を使っておいしい料理をつくったり、自分の目を気球に載せて月へ探検に行かせたり、また、クリクス先生の学校の周りの塀にはドアがあったそこからいろいろな物語の国へいけるのです。たとえばマッチ売りの少女や白雪姫、三匹の子ぶたの国などです。そしてクリクス先生の飼っているムクドリのマテウシは言葉もしゃべれる利口な鳥で、アダムがこっそり教えてもらったところによると実は昔は王子様だったというのです。そしてマテウシが人間にもどるためにある帽子のボタンが必要だと知ったアダムはボタン集めを始めます。こんな楽しい学校、皆さんも行ってみたいと思いませんか？アダムは先生のことが大好きで、先生もアダムを一番弟子だと言ってくれました。ところが、ある日この学校に大変な事件が起きます。クリクス先生はいつもそばかすを新しいものと取り替えていたのですが、そのそばかすを持ってきてくれるフィリップさんが自分の子ども2人を学校へ連れてきて無理やり入学させたのです。クリクス先生が2人の入学を嫌がったのは1人がなんと人形だったからです。そしてこの人形のアロイジーはとても意地悪な子どもでクリクス先生の学校や不思議の秘密をめちゃめちゃにしてしまうのですが……。アダムがもうだめだ！と思った時、物語は意外な展開を見せ始めます。

<子どもに手渡すときのポイント>

この物語は初版が1971年に書かれたふるいお話ですが、今読んでもその奇想天外な面白さに引き込まれます。ただ、最後の展開まで奇想天外に終わってしまうので、

ラストが良く理解できない子どももいるかもしれません。それでも、物語の途中で
てくるたくさんの楽しいしかけだけでも楽しめる1冊です。私も小学校3～4年生の
時にこの本を読んであまりの奇想天外さにびっくりしたのを憶えています。少し字が
小さくて厚い本ですが、途中で挿絵もたくさんあるので、文字だけが苦手な子でも挑
戦できるでしょう。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみて
ください。

早良図書館 吉岡 さやか